



特集 テーマ

未来にとどけ、私のやさしさ

令和5年2月発行(昭和51年12月1日発行)

未来につなぐ3つの言葉

私たちの暮らしの中に根づいている3つの言葉から未来の暮らしへのアクションを考えてみよう。

おもてなし

自分のことだけでなく、相手のことを考え、思いやりをもって接する心づかいのことです。



未来の人や地球環境のことを考えて、ゴミを少なくし、ものを大切に使うこともおもてなしといえます。

おかげさま

ほかの人から助けをもらったり、親切にしてもらったりしたときに、感謝の気持ちを表す言葉です。

例えば、おいしい給食を食べるとき、作ってくれた調理師や生産者の方に感謝することも「おかげさま」。



相手のことや自然のことを考えて行動する気持ちの形「おもてなし」「おかげさま」「もったいない」の意味合いも含まれています。

もったいない

食べ物を残したり、水を使いすぎたり、必要以上にモノやエネルギーを使っているときに感じる言葉です。



世界に広がる「MOTTAINAI」

アフリカの国、ケニアの環境副大臣だったワンガリ・マータイさんが、日本語の「もったいない」という言葉を世界中に広げようと呼びかけました。

「MOTTAINAI」を考えてみましょう

マータイさんは、環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞した人です。

マータイさんが呼びかけた「MOTTAINAI」をなくす暮らしとは、

3R + Respect = MOTTAINAI

Respect: 感謝、尊敬の心

Reduce...リデュース: ゴミを少なくする  
Reuse...リユース: モノをくりかえし使う  
Recycle...リサイクル: 資源として再利用する

私たちにもできることを見つけてみよう

フードドライブという活動

自分の家で使いきれない(未使用のもの)食べられる食品を持ち寄り、集められた食品を必要としている人や施設に届けられる活動です。

フードドライブで集められた食品は、みなさんの住んでいるまちの社会福祉協議会やフードバンク団体が、地域の福祉施設や手助けが必要な人へ届けていきます。

たくさんのごもたちが、ご飯を食べる「子ども食堂」などにも、集められた食品は使われます。



学用品や衣服をリユース

リユースとは、再利用する、繰り返し使うことです。物やお金を大切にすることにもつながります。身のまわりで、次の人へ使ってもらいたい物など見渡してみましょう。

ふくふくひろば

上田市社会福祉協議会 子ども服のリユース事業 「子ども服を必要としている家庭に届けてほしい」という声をかけて、ふく(服)とみく(福)がつながって開設されました。必要としている人は無料で持ち帰ることができます。

もったいない交流会

長野市東北区住民自治協議会 地区の人たちに幼稚園や中学校の制服、体操服(きれいなもの)の寄付をお願いしています。

回る回るハウス

回る回るハウス実行委員会(長野市) 卒業や進学が変わって、また使えるけれど、使わなくなった学用品やランドセル、文房具、参考書、制服などを必要の人にゆずる活動をしている場所です。

みなさんが住んでいる地域にはどんな取り組みがあるかな? 調べて参加してみよう!

エシカルな取り組みを知らう

「エシカル(ethical)」とは、英語で「倫理的・道徳的」という意味です。

ものやサービスを選ぶとき、「人を傷つけていないかな」「地球に負担をかけていないかな」などと考えて買うことが、「エシカル消費」です。

SDGsとエシカル消費 つくる責任 つかう責任 持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めよう。



暮らしの中の「買う、使う、食べる、捨てる」などのすべての行動が消費です。みんなが消費者です。

やさしさと思いやりのエシカル消費で世界を変えよう!



\*フェアトレードとは、「公平な貿易」のこと。開発途上国でつくっている材料や商品を適正な価格で買うことで、つくっている人たちの働く環境を良くしていくという取り組みです。

つながりに気づこう! 私のふだんをチェック!

「はい」の数はいくつありますか?

- 1 「もったいない」と思うときがよくある
2 次に使う人のことをよく考えるほうだ
3 歯をみがくときなど、水を出しっぱなしにしない
4 冷蔵庫を開けている時間は、短くなるようにしている
5 外食をして食べ物を残しすぎたとき、持ち帰りたと思う
6 いま世界で話題になっている環境問題をすくなく3つ言える
7 食事をするとき、料理を作ってくれた人のことを考える
8 料理の材料を生産してくれた人などのことも考える
9 世界で大変な状況におかれている人のために何かをしたい
10 地震や水害で被災した地域の商品を選んで買おうと思う

「はい」の数が、8~9個の場合: つながりにとてもよく気づいている人
5~7個の場合: つながりにまあまあ気づいている人
4個以下の場合: つながりに気づいていないことがある人

私たちの暮らしは、いろんな社会やモノにつながっています。



ふだん食べている野菜やお菓子、使っている文房具や洋服は、どこで、どんなふうにつくられ、どのように運ばれてくるのかな? 身のまわりのものがどんな世界とつながっているのかを考え、調べてみましょう。

未来を変えるちょっとしたヒント~人を笑顔にする算数~

思いやり算を知っていますか?

- X(かける) = 声をかける言葉 「どうした?」
÷(わる) = いたわる言葉 「だいじょうぶ? それは困ったね」
+ (たす) = たすける言葉 「〇〇してあげるよ!一緒にしよう!」
- (ひく) = ひきうける言葉 「まかせてね!これからも相談してね!」

未来の地球や自然、毎日の暮らしにやさしく、みんなが笑顔になるために



各校のボランティア・地域活動の紹介

木祖村立 木祖小学校

気持ちを伝えるお手伝い

地域の方へ思いを寄せて



木祖小学校は、地域の方とのつながりを大切にしている学校です。福祉について学習をしていた4年生は、「手話について学びたい」という願いから、村の手話サークルの先生をお招きして手話教室を行いました。その中で、「木祖村では、実際に手話を使っている人は少ない」「耳の聞こえにくい人は多くいる」ということを聞いて、手話以外で思いを伝える方法を考えました。ゆっくり大きな声で話したり、ジェスチャーで表現したりしましたが、伝わらず、困ってしまう場面も。

そこで「文字で書いて見せる方法はどうか」と考え、先生に筆談用のホワイトボードを紹介してもらいました。いらなくなった本の表紙、ホワイトボードシート、各自の家にあった布で製作しました。村内10カ所(道の駅、波原駅、村役場など)に置きたいと考え、自分たちで電話をかけて依頼し、置かせていただくことができました。どんなふうを受け取ってくれるか心配でしたが、「大切に使いますね」と受け取ってもらえてよかったです。耳の聞こえにくい人に、「ホワイトボードを使って気持ちや思いを伝えてほしいな」と思いました。

18歳までの子どもがかけられる「子ども専用の電話」チャイルドライン フリーダイヤル 0120-99-7777



★ちょっといいにくいことでも、名前は言わなくていいので安心して話してください。★お説教はしません。どんなことでも、いっしょに考えます。チャイルドラインはみなさんの苦しみや悩みを共同募金でサポートしています。



発行/お問い合わせ

社会福祉法人 ふれあいネットワーク 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 〒380-0936 大字中御所字岡田98番地1 長野県福祉事務所庁舎内 TEL.026-226-1882 FAX.026-227-0137 Eメール vcen@nsyakyu.or.jp ホームページ http://www.nsyakyu.or.jp

あなたのまちのボランティアセンターへ行こう!

どこにあるかわからない場合は上記まで!

公益社団法人 信濃教育会 〒380-0846 長野市旭町1098 TEL.026-232-6994 ホームページ http://www.shinkyu.or.jp/

やまびこだよりは、長野県社会福祉協議会のホームページからPDFファイルおよび音訳データとしてダウンロードできます。 http://www.nsyakyu.or.jp

この新聞の発行には、みなさんの赤い羽根共同募金が役立てられています。